

「城崎温泉お祭り全集」

～日本の原風景が詰まるまち～



開山忌（通称）温泉祭り

開催日 4月23日 ～ 4月24日
開催場所 城崎温泉（全町）・温泉寺

～起源～

起源は不明ですが、城崎温泉の成立そのものにかかわる祭礼であり、現在に続く祭礼の内、城崎における最古の祭礼であろうと考えられます。（四所神社の主祭礼である秋祭りの方が開山忌よりも新しい事が明らかかな為、開山忌を以って最古と断定して間違いないでしょう）さて先ず、「開山忌」と「温泉祭り」との成立の違いと返還について触れておこうと思います。現在では混同しているというか、開山忌とは温泉祭りの一部であり 24 日に温泉寺が行うものを以って開山忌とする考えが民衆の主なところのようです。開山忌とは、元来は、城崎温泉の開祖であられる道智上人がお姿を隠された、正月 24 日に大法要を厳修し、上人の御得を偲んでいたのですが、いつの頃から雪の降る時期に温泉寺の道智上人の御廟前に参る事を避けて、季節の良い三月に行われるようになり、明治になって新暦を採用してから 4 月 24 日に行われるようになりました。尚、23 日は温泉寺本堂での法要、それを受けて 24 日は湯祈願、鍊供養のあとに道智上人墓前供養、大般若転読法要と続く全体を開山忌と呼んでいました。この町に生活する者で温泉に恩恵を受けていない者はいないのであって、全町全町民を挙げての大祭であり、国旗を掲揚し幔幕をはり、各戸正装して全町が道智上人への報恩感謝の気分で充溢しました。と古老の記すところではありますが現在ではイベントとしての趣が強いように感じられます。お祭りの運営は、有志金や温泉寺の膳料、湯島財産区が出来た後は、区からの補助によって賄われてきた祭礼ですが、大正 12 年、温泉寺の龍照法印が発起されて「開山忌奉賛会」を組織され、より盛大なお祭りとなり、まさに町民挙げての祭礼となりました。

次に温泉祭りとは、昭和 8 年当時町長代理を務めていた坂本誠一氏が発起して温泉租神の祭りを挙行しようと提唱し、これに皆が賛同して開山忌前日の 23 日を温泉祭りとししました。四所神社の湯祈願（榊台巡行）を催すようになりました。即ち両日に亘る開山忌の内、23 日を温泉祭りと呼び、その全体は開山忌であるはずですが、近年では、「開山忌」の名称薄れ「温泉祭り」の呼び名が先行して「開山忌」の名称を耳にすることは少なくなりました。また「開山忌」とよぶときは先述のように、温泉祭り全体の内、温泉寺に関わる部分の事のように本義とは逆転しているように扱われているのが現状です。

～由縁～

城崎温泉は道智上人の誓願によって湧出した霊験あらたかな湯であります。その開祖道智上人に感謝する祭礼であります。道智上人に感謝申しあげる事は、同時に、温泉そのものの恩恵に感謝することであり、温泉の湧出と、その温泉によって与えられる効能に感謝する事でもあります。よって城崎温泉にとって最重要であり最大の祈りを捧げる場こそがこの開山忌（温泉祭り）であります。開山忌（温泉祭り）の起源は必然的な事であり、人々の生活と精神の内より必然的な事です。人々の生活と精神の内より自然発生的に始まったと言えるでしょう。

温泉祭りに特化すれば、町民の娯楽のみではなく、春の閑散期対策としての意味もあり企画され始めました。町内を総踊りの行列が賑やかし、俄芝居などを催して客を楽しませるのみに非ず、並湯を無料開放するなどして近隣の住民にも親しまれ、仕立て列車や臨時バスが出るほど盛大に成功をしていた時期のある事を忘れてはならないのです。

～内容～

お逮夜（前夜祭）である 23 日には、午前に四所神社の湯祈願にあたる榊台巡行が近年行われそれに伴って、時代行列が催されます。午後から夜に至って、ステージイベントなど年々思考を凝らした催しが行われています。少し前までは全町挙げての祭礼である温泉祭りにあたり、「温泉祭り実行委員会」を立ち上げて予算を割いて盛大に行い、打ち上げ花火で 23 日のフィナーレを迎えていました。24 日は開山忌奉賛会が主となり、温泉寺がその任に当たり開山忌を挙げる習わしは旧来変わっていません。

午前に御詠歌を先頭に稚児鍊供養に率いられて僧列が各温泉を巡り、温泉寺住職によって湯祈願が修されます。これを以って開山忌の要とします。（平成 20 年頃に道智上人の尊像をイベント会場に設けた足湯に初めてお祀りをし、それ以来しばらくの間、イベント会場に道智上人の尊像をお祀りして、下駄供養の際の本尊とするなどをしました。このことがあって翌年から、温泉寺としても念願であった道智上人の尊像を僧列にくわえての湯祈願を行えるようになった事は特記しておくべき事柄です。午後より道智上人の御廟前にて町内寺院、財産区議員、町内役所のお歴々が揃って供養焼香し道智上人に感謝の誠を捧げ、その後、大悲殿（本堂）に於いて、大般若転読法会を執行してご本尊さまの威光倍增を祈る。これは即ち城崎温泉の無事湧出と浴客の安全、城崎温泉の繁栄を祈る事です。よってつい近年までは、温泉寺の檀家などという枠を関係せずに、信徒総代のみならず、町長、助役、警察署長、学校長、郵便局長、駅長などに至るまでの城崎の緒役職のお歴々は進んで法会に参列をして城崎温泉の繁栄と無事を観音様に祈ったものですが、近年は観光や温泉に直接かかわる役職の者ですら参列は少なく、歴史ある城崎の開山忌の何たるかを知らぬ惨めなありさです。その他、俄や総踊り、素人相撲などの昔行われていた賑やかさを現在見る事は無くなってしまいましたが、昔温泉寺境内でおこなわれていた宝探しをアレンジして復活しました。全盛の頃とは比べられぬとは言え、屋台が立ち並び祭りにはなを添える事などは今も変わりなく、開山忌（温泉祭り）がこの町にとって重要で盛大な祭りである事の一環でしょう。

～これから～

温泉祭りは、賑やかであり、閑散期対策の意味もあって始まったものですから、町民が楽しめるイベントを催したり、そのことによって誘客に繋げていく事も重要であり、事実それに成功していた時期があるという事実は評価しなくてはならないと思われます。しかし本義である開山忌の本質は道智上人への感謝祭であり、温泉への感謝祭です。時勢に影響は致し方ないが、費用対策効果云々の理由で予算や祭りの規模を縮小することが近年ありましたが、出来る事と予算のないなかを模索して汗を流す姿は、この町の誇りを感じ極めて評価すべきすがたである開山忌は温泉寺のお祭りではなく、城崎温泉にとってもっともふるくから行われる、最も大事な祭礼であります。

何か新しい事を求めるよりも、先ずはその意味をしり、昔はそうであったように全町を挙げての祭礼とし町中の雰囲気、人々の心持が温泉への感謝に満ち溢れるようなまつりとなることを望みます。また年に一度、開山忌に際して、温泉に感謝し、歴史を顧みて、城崎温泉の本質に触れていただければと重ねて望みます。

しょうぶ湯祭り

開催日	5月4日 ～ 5月6日
開催場所	各温泉(外湯)・各旅館

～起源～

平成9年（1997年）から実施から実施しています。

～由縁～

中国では、陰暦の5月が物忌の日とされており、5月5日は病気や災厄をはらう行事が行われました。この風習が日本に伝わり葉草である「しょうぶ」「よもぎ」を飾り物として厄よけにするようになったといわれます。江戸時代には、「しょうぶ」が「勝負」に通じることから武家の間で男の子出生を祝う日となったといえます。

城崎温泉でも民家の軒先に「しょうぶ」を投げ合ったり、風呂にいれて季節の香りを楽しみながら無病息災を願う風習があります。

～内容～

各外湯や旅館の温泉にしょうぶを浮かべます。

三柱荒神祭（通称）三宝荒神祭り

開催日 5月27日 18:00～20:00頃
開催場所 旧御所の湯跡地の横

～起源～

708年以前から行われていたそうですが、起源は不明です。大正までは、6月27日に開催され夏祭りの魁とされていましたが、大正に入ってから1年間はやめられたようです。

～由縁～

708年、四所神社が建つ以前の大谿村の氏神様であったと伝えられています。

～内容～

お祭り当日はお参り・赤飯を出しています。

～これから～

少しでも多くの方にお参りしていただきたいと思っています。

庚申夏祭り

開催日	6月、7月のかのえさるの日 17：30～20：00 頃
開催場所	極楽寺境内の庚申堂

～起源～

古くは、庚申堂は、江戸時代、剣豪岩見重太郎が天の橋立てに行く途中、一夜を過ごしたと伝えられています。現在の庚申堂は昭和7年に新築されました。庚申とは「かのえさる」の日の事で年に6回その日があります。古来、この日は、大勢が集まり通し過ごした様子であります但现在は、6月、7月の間の「かのえさる」の日夏祭りを行っています。(条の期日は毎年ことなります)

～由縁～

当庚申は、熱病封じに靈験ありと伝え、おまじないの糸があり、その糸を男性は左足首、女性は右足首に巻くと、効能があるとされています。

～内容～

極楽寺住職による法要、福引がおこなわれます。

鼻かけ地蔵祭り

開催日 6月第一日曜 9：00～14：00 頃
開催場所 豊岡市城崎町楽々浦字柳

～起源～

起源は定かではございませんが、昔からあった祭りが途中何らかの理由で途絶えていた祭りを昭和52年6月に第1回目として復活させました。

～由縁～

行政の指導で「村おこし」の一環として始まった「一願成就」つまり、一つのお願いをすると叶えて下さると言い伝えのあるお地蔵様です。

～内容～

当日は御詠歌（極楽寺御詠歌会）、護摩木販売（願い事を護摩木に書いて護摩供養）、粗飯接待（各戸がさくら飯を炊いて持ち寄りパック詰めし無料で接待、このお祭りのメイン行事であります柴燈（さいとう）大護摩供養（奥丹大師会）、餅つき、ごく餅の接待（紅白の餅を3個袋に入れて無料で配布）売店（ジュース、缶ビール等）、福引き、ヨーヨーすくい（年によって変わります）、ポン菓子（業者委託）などが行われています。（年によって異なります）

～これから～

小さな集落ですのでスタッフも限られており、長く続けるための工夫をし、皆様の協力を得ながら集落全体で取り組み、日頃お参りされる方たちの期待に応えていきたいと思っています。

秋葉神社例祭（通称） 秋葉さん

開催日 6月17日 18:00～21:00頃
開催場所 秋葉神社

～起源～

江戸時代中期の秋葉大権現信仰によりものとは思いますが、全国多くの秋葉神社と同様に起源は定かだではありません。

～由縁～

祭神は秋葉大権現、火防、火伏せの神です。お参りすることで火災から守っていただくご加護を頂戴します。

～内容～

参拝してくれた子どもに菓子のプレゼント、ミニ縁日コーナー（スーパーボールすくい、フランクフルト、かき氷、ビールの販売）をしています。まただんじり太鼓もございます。

～これから～

城崎の夏祭りのトップであるので、子どもたちにより親しんでもらえる祭りにしたいと思っております。また、開催の過程での地域の繋がりをしっかり繋げていきたいです。

清玉稲荷夏祭り

開催日 7月 7 日 19：00～20：00 頃
開催場所 城崎町元町 清玉稲荷

～起源～

安政六年（1859 年）当町の里によって京都伏見の本社より現地に勧請（かんじょう）されました。

～由縁～

五穀豊穰、商売繁盛の守護神として町内また近在の崇敬（すうけい）を集めてきました。

～内容～

四所神社の宮司により祭礼を行い、お札を配布いたします。

～これから～

五穀豊穰、商売繁盛の神ですので、これから大勢の人に参って頂きたいと思います。

薬師祭り（通称）祇園さん

開催日 7月8日 17：00～20：30 頃
開催場所 薬師堂（薬師殿にて）

～起源～

はっきりとした起源は不明ですが、城崎温泉の成り立ちと温泉寺や薬師如来との関わりを鑑みるに、城崎に於いて最古級（開山忌に同等）に古い祭礼であると考えられます。

鴻の湯の北にあったという塔頭の圓滿寺が薬師殿に移ったのが、天正年間で、この頃には薬師講が組織されていることが記録にある事から遅くともこの頃には祭礼が行われていたことは確定しています。

また6月8日であった祭礼日が、明治になり太陽暦を用いるようになり、7月8日に変更され、戦後に夜のお祭りであるから7日のお逮夜の祭礼日となっていました。同日のお稲荷さんのお祭りと重なる事もあり、現在は8日の縁日の祭礼日としています。

城崎温泉の数ある夏祭りの最初のお祭りと親しまれ、古老からは「城崎の夏祭りは、祇園さん（薬師祭り）にはじまり、行者さんで終わる」と言われていますが近年はそういった事すら知る人も少なくなりました。おそらくこの事が、通称である「祇園さん」の由来と推測されています。

～由縁～

薬師如来は我が国の仏教に於いて、もっとも古くから信仰を集めた仏で、医王如来の別称が示すように、医者たるは仏さまで心身の病苦をよく除くは仏さまです。こう言った事から、温泉の薬効は即ち薬師如来のご功德とする考え、信仰が平安時代ごろから我が国において一般的となり、古い温泉地には温泉寺や薬師堂があり薬師如来を祀る事が多々であります。その他薬師如来の象徴である薬壺（やっこ）を模ったり、種子である梵字の（べい）を記すなど、薬師如来のお力にすがること多々であります。

城崎温泉に於いても同様であり、城崎温泉を守護するてらである温泉寺のご本尊は薬師如来ではなく、奈良の長谷寺の観音像と同木同作と伝えられる由緒正しきご本尊であるが、薬師堂の本尊として薬師如来を祀ります。本尊十一面観音が城崎全体の守護仏であるなら、温泉そのものの守護仏が薬師如来と言えます。よって城崎温泉に於いて、また温泉寺に於いて、ご本尊さまと同等に扱われ大切にお祀りしてきた仏様であります。

城崎温泉は元来湯治場であり、現在の方法で行われるような成分分析では証明しきれないような効験が数多みられ、現在ではそのわずかに一部を残すのみですが、心身の不調を回復した方が奉納された杖や（いざり）下駄が薬師堂に山と積まれていた事からその信仰をうかがい知ることができるのです。

そのお薬師さまに感謝をし、より一層の効験を求める事は、何ら不思議な事ではなく、その必然性から薬師祭りが執行されるようになりました。また薬師講を組織し催し、お薬師さまのもとで城崎に於ける緒行事の企画運営について図ったのです。

即ち城崎に住む者にとって、温泉は生活の中心であり必須であったのと同様にその守護仏であり、効験そのものであるお薬師さまもまた生活の中心におられたのです。

～内容～

城崎温泉に於いては温泉寺のご本尊は観音さまでありますが、温泉と薬師如来の関わりは大変に深く、平安後期頃には日本に於いての湯治の効験は即ち薬師如来のお力であるという信仰が一般的であり、特別な存在でありました。城崎温泉に於いてもご本尊である十一面観音さまと同等に薬師如来に対する信仰は極めて厚く、この祭礼のみならず年始の縁日である 1 月 8 日の初薬師（初薬師講）と合わせて町人にとって大切な日です。

往古は宿屋の衆のみならず、町衆緒役は当番を組んでお供えを集めて、薬師講に参拝して薬師如来に手を合わせ、同時に緒行事などを決めていました。

この薬師講が、現在で言う旅館組合や商工会、観光協会のような城崎温泉の緒行事や方向性を決定する組織であり、重要な場であった事からも温泉寺の薬師如来（薬師祭り）の意味付けの重要性を知る事が出来るのです。

現在では温泉寺に檀家を中心にお勤めをし、町の緒役の参拝も殆どございませんが、城崎温泉守護の薬師如来の大祭であり、出来るだけ失礼なきように祭礼を厳修しているのが現状です。

お供えの餅をつき、御御供（おごく）として参拝者に振る舞い、その他に温泉寺甘露会や、連中による屋台や福引などもおこなっています。

また近年途絶えていたお薬師さまのお御影であり、全国でも珍しいお札、浴室安全のお札を平成 25 年に復活しました。

～これから～

この祭りに限らず、お祭りは楽しい事が前提ではありますが、何故そのような祭礼が行われているか？という本質を知り、原点回帰をしていく事ができれば、城崎温泉の魅力や意義がより一層輝きを増すのではと思います。

若上臈稲荷夏祭

開催日	7月10日 18:00～19:30頃
開催場所	若上臈稲荷および城崎小校グラウンドの一部

～起源・由縁～

1219年の承久の変により、後鳥羽天皇の第三皇子、雅成親王が但馬豊岡の高屋に配流の身となり、皇子はこの地で生涯を閉じられました。都で皇子を慕っておられた妃は従者を連れて但馬に入られたものの、前途多難な行路に思いつめられて、「死んで南風となり高屋に達せん」と前の川に入水され果てられました。これ以来、毎年、この頃になると洪水がおきたため、村人は、妃の霊を慰めるために若上臈稲荷に女官の遺骨道髪をお祀りしました。

若上臈稲荷は、1726年、今の城崎小学校が建つまでは田園のあぜ道にひっそりと建っていた小さい神祠であったそうです。「上臈」とは、功のある身分の高い婦人のことで、官中では女官の最高級のものの総称とされています。「稲荷」とは、田の神、耕作儀礼としての食物の神とされ狐を神使としています。

～内容～

福引とお参りいただいた方に赤飯（一口）を差し上げます。

～これから～

小学校の裏山の中腹にあり小学生が楽しめるお祭りにしていきたいと思います。円山川河口の見晴らしも良く、愛宕山から大師山へ縦走することもできます。地元住民や観光客もお参りしてもらえるようなお稲荷さんにしていきたいと思っているものの課題が多い状況にあります。

妙見大祭（通称）妙見祭

開催日	7月15日 17:00～21:00頃
開催場所	本住寺

～起源～

妙見さんを安置していたようです。（お祭りを行っていたかは不明）その後、北但大震災で妙見堂を焼失、しばらく本堂にお像を安置していたようですが、震災後に現在の妙見堂が再建され、お祭りも現在の形になったと思われます。

～由縁～

妙見さんは「北辰妙見大菩薩」と呼ばれ、北辰＝北極星を神格化されたものです。昔から、太陽・月・星の運行は神秘的なものとして崇められてきましたが、北極星だけは、常に北を指していることから、成人（特に海上運行）の指針として仰ぎみられ人生の道を開く開運の守護神として深く信仰されました。有名なものに能勢の妙見さんがありますが、妙見さんの矢筈（やはず）の紋は能勢家の家紋です。護国鎮守、除災福得、五穀豊穰、その他海上安全、商売繁盛、学問成就、開運、縁結び眼病平癒の現世利益があるといわれています。

～内容～

19時より法要（30分程度）、喜多町町内会より催行協力を頂き、17時より福引、かき氷、流しうどん、だんじり太鼓を実施。また最近では、町内会のご提案により天体観測や表駐車場に出店も実施されています。過去には、映画の上映もあったと伺っています。

～これから～

檀家だけでは、お堂の清掃と19時からの法要が精一杯ですが、町内会のご協力を得て城崎町内の年中行事の一端として、人が集まる（特に子供さん）よう催しを充実し継続していけたらと思います。

西谷不動尊夏祭り

開催日	7月16日 18:00～20:00 頃
開催場所	不動尊本堂及び会館

～起源～

起源はわかりませんが、昔から地区の老人さんが不動尊像と囲炉裏を囲んで毎月16日に「不動講（16日講）」という「楽しみ会」をされていたようです。

～由縁～

昭和55年7月に城崎町内から寄付を頂き、不動尊の本堂、地藏堂、倉庫を改築したことから町民を対象に信仰とふれあいを目的と始まったようです。

～内容～

不動尊本堂にて「護摩供養」と「福引」や「赤飯（おごくさん）」の配布を行い不動尊会館にて福引の交換を行っています。

～これから～

地区のお祭りの資金が続くかぎり、地区住民と町民とのふれあえる祭りにしていきたいです。

鬼子母善神祭

開催日 7月18日 17:00～21:00頃
開催場所 柳町 井戸周辺

～起源～

北但大震災直後より開催（推定）とされます。京都の本隆寺より鬼子母神の分身として祀っております。

～由縁～

「火伏せの神」である京都本隆寺の鬼子母神を祀ることにより、二度と大火事による惨事が起きないようにという願いと、本来鬼子母神の持つ「子供の神様」の両方を意味しています。

お祭りを開催することにより、コミュニティーの活性化とまとまりを目的としています。

～内容～

当日はお参りして頂いた方にお札配りやたこ焼きなどの出店、子供達の手によるヨーヨー釣り、スーパーボールすくい、本住寺住職による祈祷。檀尻太鼓などが開催されてます。

～これから～

高齢化により、人手不足はやむを得ないですが、地域の「行事」として、ずっと続けて行きたいと思っております。

愛宕祭り

開催日	7月24日	17:30～20:30頃
開催場所	文芸館周辺	

～起源～

起源は不明です。京都の愛宕神社が総本社となります。

～由縁～

火伏せの神を祀ります。

～内容～

当日は、お札配り、くじ引き、だんじり太鼓が行われます。

～これから～

人手不足の為、年々縮小しているが、できる範囲で続けていきたいと思います。

川下祭り（通称）弁天山の祭り

開催日	7月31日	15:00	～	21:00
開催場所	弁天山及び周辺			

～起源～

大正14年、北但大震災の火災で焼失して創立年月日等は残念ながら不明です。御本尊は温泉寺にございます。昭和3年7月再建しています。

～由縁～

安芸の宮島の分祀で四所神社宮司により、女神、市岐島姫命（市杵島姫命：イチキシマヒメ）を奉祀（ホウシ）します。

～内容～

南中、南下、弁天、北松ヶ崎町内会にて早朝より清掃、飾り付けが行われます。弁天町内会有志（平成14年より弁天奉賛会発足）によるくじ引きや子供会夜店等が行われ、だんじり太鼓が鳴り響きます。

～これから～

子供、大人共に、人材不足のため存続不明です。

城崎温泉ふるさと祭り

開催日	8月 4日	18:00 ～ 21:00
開催場所	町道北側（一の湯王橋～地藏湯）城崎温泉駅通りなど	

～起源～

昭和 50 年頃から始まったと思います。

～由縁～

夏のひと時を住民と観光客と一体となり、共に楽しめる催しを目的としています。

～内容～

町道北側の通りや駅通りで、町民の手作りと売店等を開いたり、大谷川の川面にかざり火が映し出され
景観をと祭りの催しが一体となり好評です。花火も商工会と共に催しをした記憶があります。

行者祭り

開催日	8月	5日	夕方
開催場所	温泉寺薬師堂		

～起源～

残念ながら不明です。

～由縁～

昔から城崎の夏のお祭りの締めくくりとして行われています。行者祭りは、役行者をお奉りする行事です。修験の開祖であり、仏教史上の超人である役の小角（えんのおずむぬ）をお祀りし大柴燈護摩供養は、野外で行う大規模な護摩法要のことです。

火の持つ神聖さにふれることによって無病息災、家内安全、商売繁盛の意味がございます。

～内容～

赤飯（おごく）のお接待、景品付きくじ引き、だんじり太鼓鳴らし、ミニ屋台などが開催されます。

地蔵盆

開催日 8月23日 17:00～ 21:00頃
開催場所 薬師堂（薬師翫にて）

～起源～

明確な起源は不明ですが、歴史的に考えても城崎に存在する石仏から推測しても江戸時代に始まったとされています。

～由縁～

地蔵（梵名クシティガバル）の名が示すとおり、大地を蔵とするなど慈悲が广大で深い仏さまです。また大地を蔵とすることから、道教における信仰である道祖神の信仰と重なり、我が国に於いては辻々に祀られ、その周辺の地域や従来をする旅人を守る仏として祀られる信仰があります。同時にその慈悲深い事から地獄に業火を自らが破り、衆生を守るとの誓願を立てておられた人々はその慈悲にすぎりました。特に近世に至るまでは、子どもの死亡率は高くそれを悲しむ者の悲しみを救い菩提を弔う仏こそが地蔵菩薩です。よって、元気に辻を駆けて遊ぶ子どもの守護仏であり、亡き子を守り菩提を弔う仏こそ地蔵菩薩であって、子どもとの関係深くして子どもの守りは仏の代名詞として信仰を集めていることは一般的であります。この事からお盆に最も近い地蔵菩薩の縁日である8月24日（旧暦では7月に西日本を中心に地蔵盆を行う風習が生まれ、城崎に於いても同様に行われています。

～内容～

古老の覚え書きや一般的に行われているものを書き記せば、町内ごとの地蔵尊にお参りし、団子や菓子を供え、夜通し踊りまわったそうですが、今日もお供えは同様だと思いますが、夜通しどころかこの日に盆踊りをする町内の方が稀になっており、年中行事として行うものの当番の方が片付けのありことを気にして、お勤めお参り終われば時間に従って終わるのが倣いとなっているようです。

このお供え団子や菓子を町内の子どもにおさがりとして配り与えて子ども達の健康を願い事などは今も昔も変わりません。しかし近年少子化が著しく、町内によっては、対象年齢の子どもにいない所もあるらしく寂しい印象があります。また地蔵盆に限った事ではないが、往古より城崎における一般の神事仏事については城崎温泉の守護寺である温泉寺がその任に当たる事が通例とされており、現在もその通り務めます。（現在湯島内14か所。極楽寺境内にある地蔵尊は極楽寺がお勤めしておられます）

～これから～

元来は子ども達の健康と、早逝した子ども達の菩提を弔うために行われて来たが、少子化の現在にあっては地域のコミュニティーの結束の一助となればと思います。また城崎温泉という各地からの浴客、観光客を迎える土地柄からも、辻に祀る旅人の安全を守るお地蔵さまの祭りとしての意義も重要です。事実城崎に町内には地蔵尊の数多く、旧城崎町内に祀る六地蔵に限っても12か所を数えます。さらに地堅め地蔵として祀られる「但馬六十六地蔵」の内旧城崎町内に6体を祀る事などからも、地蔵菩薩への信仰の厚さを同時に、旅人を大切にするこの町の精神を窺い知ることができます。今後もこの淨行の意味を理解しつつ、町内の楽しみとして、特に子ども達の楽しみとなるように、この信仰と風習を断続して下さいよう切望致します。

但州湯島の盆

開催日	9月 20:00 ～ 21:00 頃
開催場所	北柳通り（地蔵湯～一の湯）

～起源～

江戸時代の頃から城崎温泉に多くの湯治客が訪れるようになり、親元を離れた芸妓さんも多くなりました。繁忙期の翌月を盆として一時の安らぎを地域の盆踊りとは別にふるさとを想い謡い踊り始めたのが起源です。

～由縁～

平成 17 年春、地元の有志が集まり、昔ながらの情緒ある街づくりを推進していくため城崎小唄を復活させ、後世に残す事を目的として地方と共に再現されました。

～内容～

桃島橋で城崎小唄に合わせ、地方の演奏があります。胡弓、三味線、尺八の音色におそろいの衣装を身につけた踊り手が、北柳通りを踊り流します。提灯を先頭に総数 100 名位の女、男、子供の連が練り歩きます。

～これから～

風情豊かな柳並木の大谿川や温泉街、太鼓橋という素晴らしい景観を生かし、地域の方や観光客にも参加して頂ける事業として今後も保存会の方々と協力しながら続けていきたいです。

四所神社秋季大祭（通称）城崎だんじり祭り

開催日	10 月 14・15 日
開催場所	四所神社及び城崎町内

～起源～

江戸時代中期の享保 9 年（1724 年）に『四所神社御輿』が完成。さらに明和元年（1764 年）に上部の『御輿台』、翌年に下部の『大だんじり』が完成し、現在のだんじり祭りの原型が整ったものと考えられます。

～由縁～

本来、地域の『カミ』を祀る厳粛な儀式として始まったと思われます。江戸時代中期以降、現在のだんじり祭りの形式が確立されてからは、1 年に 1 度の地域住民の楽しみの行事となっています。

～内容～

10 月 15 日午前 10 時、四所神社にて祭典を斎行、正午に神輿が出御、町内を巡幸し 18 時頃還御します。

～これから～

歴史と伝統のある城崎だんじり祭りが今後も慈無く実施されていく事を願っています。

きのさき福祉まつり

開催日 10 月 第 4 日曜くらい
開催場所 城崎健康福祉センター

～起源～

第 1 回目は不明ですが、平成 9 年には第 3 回城崎町福祉まつりを城崎町社会福祉協議会が開催しています。平成 18 年 3 月に合併し、豊岡市社会福祉協議会となりましたが、継続して開催をしています。

～由縁～

地域住民の交流をとおして、住民同士のつながりを深め、たすけあい運動をひろげることにより、安心して暮らせる地域づくりを目指すためです。

～内容～

各団体による食べ物等のバザー、福祉バザー、城崎子育てセンターによるコーナー遊び作品展示、城崎こども園による演技などが開催されてます。

～これから～

もっと地域の人に参加してもらえる様にしたいです。

かにの豊漁祈願祭

開催日	11月 6日	11:00 ～
開催場所	温泉寺	

～起源～

平成 16 年（2004 年）から温泉寺薬師庵で開催。それ以前は、大師山山頂かに塚にて開催されています。

～由縁～

今年のかにの豊漁を願う為のものです。

～内容～

温泉寺の和尚様に薬師庵で豊漁のお経を読んで頂きます。

～これから～

もっと住民の方に知っていただきたいです。

かに供養

開催日 3 月 31 日 11：00 ～
開催場所 大師山山頂 かに塚前

～起源～

かに塚を昭和 56 年（1989 年）に設置しております。

～由縁～

松葉蟹漁が大漁であれば、それだけお客様に安くて美味しいかに料理が提供できリピーターにもつながります。今年の蟹漁に感謝し、来年の蟹漁に繋がるように願います。

～内容～

温泉寺の和尚様にかに塚前でその年の蟹に感謝と来年の豊漁を祈りお経えお読んでいただきます。

～これから～

もっと住民の方に知っていただきたいです。